

小学校最後の夏休み。私は、今年の夏こそ「友達とたくさん遊びたい。神奈川の祖父母に会いに行きたい。バスケの練習を思いっきりしたい。」というたくさんのお楽しみを抱いていた。しかし、去年に引き続き、今年も私の住む石垣島でも新型コロナウイルス感染者が増加し、友達と遊ぶ、部活もできない日々が続いた。

私は、小学二年生からバスケをはじめ、今はチームの副キャプテンをしている。私たちのチームは、八重山地区の夏季大会で優勝できなかったけれど、冬季大会では、絶対に優勝したいと思っている。小学校生活は残り数か月。ミニバスケは小学生の時しかできない。だからこそ、今の仲間と一緒に、優勝という目標に向けて、自分やチームの課題に取り組み、心が一つにまとまった強いチームに成長したいと思っている。しかし、『上手くなって大会で優勝したい』という同じ思いはあるけれど、仲間とぶつかり合うこともあり、仲間と一緒に何かを成しとげようとする事の難しさを、感じることも多々ある。

今年の夏休みは、部活が休みになり、仲間と練習できなくなったため、妹と家や公園で自主練習をしたが、なんだか楽しくなかった。その時はじめて、バスケは仲間がいるから楽しくできることを感じ、はやく仲間とバスケがしたいと思った。また、仲間とぶつかり合いながらもお互いの事を分かりあうこともできる事に気づいた。バスケは、常に全員で攻め、全員で守るスポーツのため、みんなの心を一つにすることが大切だ。そのため、仲間同士の考えが合わない時もあるけれど、考え方の違う相手に対し、そういう考え方もあるんだなと受け止め、相手を分かろうという気持ちを持つ事が大切だと感じた。

私は、仲間と会えない時間の中で、仲間という私の宝物に気づいた。仲間がいるから楽しさも学びもある。仲間がいるから、自分は成長できる。部活ができるようになったら、仲間という宝物に感謝の気持ちを伝えたい。